

平成 20 年度 学校評価（自己評価）

はじめに

学校における最も重要な項目は、園児の育ちと、先生の資質の向上にあると考える。
そのため、今回の学校評価(自己評価)は、大きくはその2点に絞り、特に先生の資質向上への取り組みについては、抽象論ではなく具体的かつ安松幼稚園において実践された事柄についての評価を行った。

園の教育目標

健やかに 豊かに 賢く …… 多くの知識を得ることは単に知識にとどまらず、私たち人間の情操を豊かにし、思考を高めることに直結します。賢くという言葉には、このような意味が込められています。

安松幼稚園の設立認可申請書に、「心身共に健全なる幼児の育成に努め、以て文化日本の建設に九牛の一毛にてもお役に立つべく決心した次第です」とあるように、日本の文化を、次代を担う子ども達に伝えることが学校の責務と考えています。
そして人としてのあるべき姿として、たくましい精神力と優しい心を育てたいと願っています。

学校として位置づけられている幼稚園において、最も重要な項目と、その項目の目標など

項 目	目 標
園児の育ち	<ul style="list-style-type: none">・基本的な生活習慣を身に付ける・たくましく そして やさしく・善悪のけじめを知る・特に3歳児においては、集団生活に適応し、お友達や先生との関係を楽しむことができる・4,5歳児においては、お友達や先生との人間的な心のつながりや信頼関係などにまで高めていく・幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で、色々な領域における力を養う
先生の育ち	日々の反省や研究授業、自分の意見を発表するスピーチなどの多くの研修を通して、先生としての資質を高める。
保護者の育ち	日々の先生との接触、授業参観や講演会、保護者同士の交流などを通して、子育ての視点を高める。

評価項目の達成 及び 取組状況

園児の情報交換	1年間を通して、毎日放課後に、約1時間30分から2時間程度、個々の園児についての情報交換を、一日も欠かさずに続けた。 <ul style="list-style-type: none">・すべての先生が、園児一人一人の状態を把握し情報を共有することは、園児一人一人を大切にしていくなかでとても有効であった。
---------	--

	<p>・問題を持っている園児や、特別に支援を必要としている園児について、情報交換を行うことが出来た。</p> <p>広汎性発達障害の研修会においても、担当している先生一人で苦しむのではなく、全員でその情報を把握し問題点を解決していくことが重要であるとの基本的な指摘が多くなされる。が、これは当園にとっては当然のことであり、学校が堅持すべき基本的なことであるということが、再評価された。</p> <p>・一方、プラス面の情報交換も多くあった。</p> <p>「今日私のクラスでは、こんな楽しいことがありましたよ」</p> <p>「 さんが、こんなに優しくかったよ」</p> <p>「 さんが、こんなに勇気があったよ」等の話も多く交換される。</p>
園児との触れ合い そして言葉かけ	<p>当園では、登園してきた園児に対して、何らかの個人的な言葉かけを、先生全体で心掛けています。これは当然とはいえ、とても大切なことで、大きく評価されるべきことである。(いかなる人間も無視されるほど悲しいことはない。)</p>

先生の研修

理事長・園長研修	<p>年に3回各学期の初めと、必要に応じて随意開催された</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達への言葉かけの大切さなど園児との心の交流について ・年齢に応じた子どもの発達段階とそれに合わせた教材の組み立てについて ・広汎性発達障害などの特別支援教育について
研究授業	<p>すべての先生が各自研究テーマを設定し、教案を作り、研究授業を行い、ほとんど全教諭が参観する。新任は2回行うので、園としては年間24回の研究授業となる。</p> <p>研究授業の後、風通しのよい反省会となる。</p> <p>研究授業が意味を持つのは、遠慮せずに、感じたこと・考えたことを発言できる反省会があってこそである。</p> <p>当園の反省会は、全教諭が「良いところは良い。まずいいところはまずいい」と、率直に言い合うので、その意味で非常に厳しいものである。が、それ故に、その批評を素直に受け止め、「次こそは、今日の反省を生かしてやってやるぞ」という先生は、非常なスピードで成長していく。</p> <p>当園の教育の質を高く保つことができる理由の一つは、この研究授業にあり、充実した園内研修を実施できるスタッフがそろっていることが、園のレベルを現すと考え、最も高く評価される場所である。</p>
日常のお互いの参観と率直な話し合い そして チームティーチング	<p>毎日の保育において、数多くのチームティーチングを導入している。それとともに各教室を自由に参観しあうことによって、多くの先生の良い点・まずかった点を知ることにより、自分自身を見直し向上することにつながった。</p>
お泊り研修会	<p>6月に2回、お泊り研修を行った。寝食を共にし楽しい研修となった。</p>
スピーチ	<p>夏休みに各自が読んで感銘を受けた本について紹介するとともに、自分の考えを話す。</p>
定例研修	<p>機に応じて、“季節の移ろい”など自分自身が感じた季節感や、“時事問題”など新聞も用いながら、教育だけではなく色々な分野に踏み込</p>

	<p>んでのフリートーク形式で行う。なかなか楽しい研修であった。 , の研修は、先生の間人としての幅を広げ、教養を深め、結果として日常の教育活動に多大なプラスとなった。</p>
外部研修	<p>府教委や府私学課・大私幼・民間 の興味ある研修に積極参加している。 当園が行っているほどの風通しのよい質疑がほとんどないため、園内研修に比べて物足りなさが多く残った。</p>

・総合的な評価

平成 20 年度の学校評価（自己評価）は、園児の育ち 並びに 先生の育ち の 2 点に絞った反省・評価となったが、これら 2 項目が最重要と考えた故である。
全教職員が、風通しよくそれぞれ率直に、自己並びにお互いの評価を行うことが出来、取り組むべき課題についての重要性を明確に理解し再確認できた。

園児の育ち

この 1 年間、園児の情報交換と多くの言葉かけなどの触れ合いを通して、すべての先生でもって、各園児を見守り、個々人を大切に育てることが出来た。

その結果、園児の先生に対する信頼の気持ちは極めて高く、多くの教育効果を上げ得たと自負している。このことは、保護者から頂くお手紙（感想）にも多く表れている。

先生と園児との会話を通じて、園児に“誇り”と“自信”を育てることが出来た。

先生の育ち

当園は、在園の保護者から、多大な評価を受けているのも、上記の多くの研修を通じて、先生の資質の向上がみられるからだ自負している。

企業の良さが人材で決まるように、学校は教師力で決まる。先生の熱意と指導力で決まると考えている。

今回の自己評価において、当園で実践している研修を具体的に挙げ評価してみたが、改めて安松幼稚園の誇りは、園内研修を通して育ち得た先生のクオリティーの高さにあると再評価した。

・今後取り組むべき課題

園児の衛生管理・安全管理、幼児の発達段階などの研究、それに基づく教育課程の見直し、地域における子育て支援 等々は当然として、上述の先生の熱意と指導力を高めるための色々な園内研修を途切れることなく継続していくことが、最も重要であると考えている。

今回の評価では触れ得なかった「特別支援教育」に関しても、この 5 年間、園外・園内の多くの研修をなし、支援を必要とする園児を一定数受け入れ成果を上げてきたが、今後とも継続することが重要と考えている。

・最後に

これら平成 20 年度 学校評価（自己評価）を基にして、学校関係者の評価を得たいと考えた。
さて平成 20 年は、安松幼稚園創立 60 周年に当たる記念すべき年であったため、記念行事をなすに当たり、多くの学校関係者がその準備のために集った。

そしてその会議における自由な色々な話し合い、並びに、上記の自己評価に基づいて、学校関係者評価が出されたので、平成 20 年度学校評価（学校関係者評価）として、お知らせする。

平成 20 年度 学校評価（学校関係者評価）

・最初に

問題点の指摘	<p>学校関係者による学校評価をここに提出するに当たり、最初に問題点を一つ指摘しておきます。</p> <p>例えば、預かり保育を長時間行っている故地域社会の子育て支援に貢献しているとか、老人ホームとの交流があるから社会に対して開かれているなど、そういう形式的な評価は非常にたやすく行うことができます。</p> <p>それはあたかも、自動車販売店の評価を、販売した車の台数を数値化することによって、容易に評価できるのと同質です。</p> <p>ところが学校は、特に幼稚園は、子供の人としての育みとその目的の第一とするところなのです。</p> <p>人としての育ちをテストするわけにもいかず、そういう内容を、その学校の力量としてどのように評価していくかは非常に難しく、そこに子供を預けている保護者の実感によるしかありません。</p> <p>その実感が客観になり得るかどうかは、同じ感想を持つ人が多く存在しているかどうかによると思われます。</p> <p>今回提示された学校評価（自己評価）は、まさにその評価することが難しい子供の育ちと先生の育ちという2点を中心でした。先生の研修における評価も、研修の回数は多少の評価になろうとも、質的なものを考慮すれば、非常に難しい分野です。</p> <p>それ故、学校関係者による評価は、保護者の実感を中心とせざるを得ない面がありましたが、その客観性を補足するものとして、安松幼稚園のホームページ掲載の「お母さんからのお便り」をご覧ください。年間、何百通のお手紙が園に寄せられているとのことで、許可を得た上でその一部を掲載されています。これを併せることにより、ある程度の客観性を得られると考えました。</p>
--------	--

・園児の育ち を中心に

自己評価を元にした検証	<p>安松幼稚園に入園させた保護者の多くには、一言で表現しますと「子供が大きく変わった」という想いがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・挨拶がスーッと出るようになった・周りに優しくなった・やる気満々に、物事に積極的に取り組むようになった 等々 <p>それと共に、先生方の熱意と指導力を、強く感じています。</p> <p>そして子供が上記のように大きく変わった理由は、先生方の子供への働きかけがあるからだ、ほとんどの保護者は実感しています。その根拠をいくつか挙げてみます。</p> <ul style="list-style-type: none">・家での子供の変化・日常における先生との交流・個人懇談の際に、先生から具体的に子供との触れあい・会話を伝えられる・参観時の子供の態度と先生の指導の様子・参観後の園長の講演を通じて、先生方の教育についての考えが伝わる
-------------	--

- ・色々な活動や用事で、保護者が園に出向いた時に、実際に見かける先生の動きや園児などへの言葉かけを通して

学校評価（自己評価）は、上記の多くの保護者の持つ感想を裏付け一致するものであり、安松幼稚園の現状が的確に表されているものと認めました。

・学校関係者評価委員会では、多くのお母さん方の感想や意見を次にまとめました。

(先生の育ち 保護者の育ち を中心に)

<p>学校関係者評価委員会として、是非書き留めておきたかった事柄</p>	<p>子どもが良くなるだけではなく、親自身が、先生方の日常の姿を見 触れあう中で、子育てや教育を学び成長できた。</p> <p>ほとんどの保護者は、幼稚園や先生に対して、感謝の気持ちを多く持っている。随所随所で、お母さん方は子どものひたむきさに感動して涙し、また先生の一生懸命な姿を見て感動で涙する幼稚園生活です。</p> <p>地域社会や保護者の間では、安松幼稚園の先生方の“熱意”と“指導力”は、高く評価されています。先生方の教師力は、園内の充実した研修によると思われれます。</p> <p>理事長先生・園長先生の揺るぎない信念と、一般の先生方に対する指導力と面倒見が、とても大きいと考えられます。</p> <p>多くの保護者は、小学校に入学すると、先生の質の差がよくわかれると発言されますが、この程度の記載に留め置きます。</p>
--------------------------------------	--

・これらの客観性を強め補足するために、平成 19 年の公開保育と、平成 20 年の安松幼稚園創立 60 周年記念式典の際の出来事・模様を附記致します。

<p>公開保育</p>	<p>平成 19 年 10 月 24 日 午前 9 時 30 分～ 12 時 に下記の要領で実施されました。</p> <table border="0"> <tr> <td>0 時限</td> <td>午前 9 時 30 分～ 40 分</td> <td>朝の集い</td> </tr> <tr> <td>1 時限</td> <td>午前 9 時 40 分～ 午前 10 時</td> <td>年中 体育 サーキット</td> </tr> <tr> <td>2 時限</td> <td>午前 10 時～ 午前 10 時 25 分</td> <td>年少 言語発表</td> </tr> <tr> <td>3 時限</td> <td>午前 10 時 30 分～ 午前 11 時 5 分</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"> 年長 ・音楽 発声（音域を拓げる）& 歌唱指導 ・環境 体の仕組み & 食事への感謝 等 ・体育 跳び箱（開脚跳び） </p> <p style="text-align: center;">午前 11 時 10 分～ 12 時 反省協議会</p> <p>この大阪府私立幼稚園連盟・南海支部の公開保育には、約 150 名の先生方と共に大阪府生活文化部・私学課から、当時の課長・岡本富士男様 並びに 幼稚園振興グループの課長補佐・榎下朋浩様も参加され、「こういう研究会に参加でき色々参考・勉強になりました。」と感想を述べられました。</p> <p>最後の反省協議会においては、56 人の先生から意見を頂きましたが、遠慮（？）もあってか、厳しい批評は出ませんでした。そこで安松幼稚園での園内研究授業での反省会と同じく、当園の先生間で風通しの良い「ここはまずかった。ここは良かった」の討論が、参観の先生方の前でなされました。</p> <p>散会后、参観にこられたある先生から、友人である当園の先生に、「あんなに率直に、はっきりと、保育の良い点・悪い点を述べられると、私なら辛いわ」との</p>	0 時限	午前 9 時 30 分～ 40 分	朝の集い	1 時限	午前 9 時 40 分～ 午前 10 時	年中 体育 サーキット	2 時限	午前 10 時～ 午前 10 時 25 分	年少 言語発表	3 時限	午前 10 時 30 分～ 午前 11 時 5 分	
0 時限	午前 9 時 30 分～ 40 分	朝の集い											
1 時限	午前 9 時 40 分～ 午前 10 時	年中 体育 サーキット											
2 時限	午前 10 時～ 午前 10 時 25 分	年少 言語発表											
3 時限	午前 10 時 30 分～ 午前 11 時 5 分												

メールが入ったそうです。その安松の先生は、「そんなん、当然のことやんか。特にまずかった点をはっきり指摘してもらわないと、先生は伸びへんで。それこそ仕事の一つやんか。結果として子供の為になるんやから。安松の先生は、あんな程度の批判は平気やで」というやりとりがあったと聞きました。

その公開保育や、その後の反省協議会には、今回の学校関係者評価のメンバーである育友会（PTA）の私たちも、オブザーバーで参観していました。今回の自己評価にある 先生の研修 研究授業 の記述通りの展開を目の当たりにし、そしてその後の他園の先生とのやりとりを聞いて、安松幼稚園の先生方の質の高さは、まさに率直なる反省会を伴う研究授業にあると実感し、ここに高く評価する次第です。

創立 60 周年
記念行事

平成 20 年は、安松幼稚園の創立 60 周年の記念すべき年でした。育友会会長山本亜由美氏から、ぜひ記念行事を執り行いたいという強い要望が出されたことが、実施への契機となりました。会議での話し合いを基に、実施に当たっての会長の想いが次のように記されましたが、安松幼稚園の学校関係者評価の一助となると考え、ここに記載しました。

安松幼稚園からの学び 私が 60 周年企画を提案した理由

育友会会長 山本亜由美

安松幼稚園創立 60 周年・安井千代先生園長就任 60 年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

子どもがある年齢になりますと、「幼稚園」という社会に出すわけですが、私達親も、その社会を充分に理解しておく必要があると、私は思っています。幼児期に、親も子どもどんな社会に身を置くかで、実はこの時期の子供の成長・親の成長に大きな違いが出てきます。

先生、親が挨拶しない園。子供が挨拶するわけがありません。それでも大人たちは平気です。ゾッとします。

同じ先生があまり続かない園、その園にいったい何があるのでしょうか。

役員を決める時、先生が一軒一軒電話をしてお願いする園って？ 親の役割って何でしょうか。

私は安松幼稚園に子供を通わすようになった 1 年目から、安松幼稚園のこれまでの歴史を知りたいと思っていました。教育に対する信念や想いは、入園してすぐに伝わりましたし、伝統も感じました。その後も色々な活動を通して、安松の教育を肌で感じながら、やはり一本の教育方針をぶれずに 60 年も続けるのは、すごい事だと思ったからです。

きちんとした教育の方針、信じて守り続けてきた想い、先生の質・レベルを上げるために惜しみなく磨いてきた事 等々。

教育のプロとして、子ども達を導く姿勢がぶれなかった社会が、ここ安松幼稚園にあると思います。

私は安松幼稚園の伝統には、「昔のことは守るだけでなく、受け継がれたものの上に、今の子供に何が必要かという事を柔軟に取り入れていく」面があると感じています。

だから私は、安松幼稚園のどんな“歴史”や“伝統”を、今、私達と私達の子どもが受けているかを知る事はとても大切ではないかと思い、60周年の企画を提案した次第です。

本日はおめでとうございます。（以上、引用終わり）

・最後に

最初に問題点を指摘しましたように、人としての育ちを評価するには非常な困難を伴います。

保護者の多くの声を学校関係者の評価に取り入れました。

それを補強するものとして、公開保育の様子や、その後のやりとりが、安松幼稚園の自己評価を担保するものと感じ、記載しました。

さらに、60周年記念行事の準備の際に集った度々の会議の内容こそ、実質的な学校評価でもありました。その安松幼稚園の学校関係者評価の集約として、20年度育友会会長の文を認めました。

以上のように、自己評価を適正と認め、今後とも現在の幼稚園の有り様をぶれなく貫いてほしいという希望を述べて結論と致します。